

# 取扱説明書

## 広範囲型 2号 消火栓

機器を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読み下さい。

尚、この取扱説明書は、最終顧客様までお渡し願って、日々お客さまの目の届くところに保管していただきますようご配慮の程、お願いします。

株式会社 立売堀製作所

## はじめに

正しい操作方法をご理解頂くため、この取扱説明書を必ず最後までよくお読み下さい。



### 危険

操作手順に従い、正しく操作して下さい。  
誤操作は、人及び物品に危害を与えることがあります。

## [ 操作手順 ]

### 1) 消火栓箱の扉を開け、ノズルを取り出す。



### 注意

ノズルが閉じていることを確認して下さい。  
ノズル先端（外筒）を、反時計方向（“閉”表示方向）へストッパーに当たるまで回して下さい。

### 2) 消火栓バルブを開ける。

- 消火栓バルブの開閉方向は、反時計方向へ回すと開きます。  
バルブは全開にして下さい。（バルブを全開にすると、ポンプ起動スイッチが入ります。）



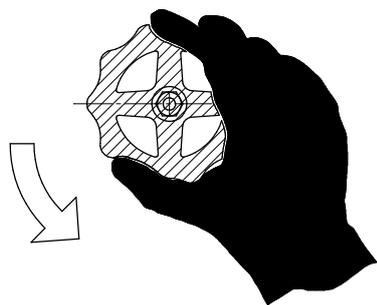
### 危険

バルブを開けると、ホース内に水圧がかかります。ホースの取扱には十分注意して下さい。



### 注意

バルブは必ず全開にして下さい。



## 3) ノズルを持ち、火点へ向かう。



 **警告**

ホースの長さは30mです。ホースは、引張力10daN以下でスムーズに延長できます。大きな抵抗を感じたときが限界長さですので、それ以上無理に引っ張らないで下さい。ホース破損の原因となります。

## 4) 放水する。

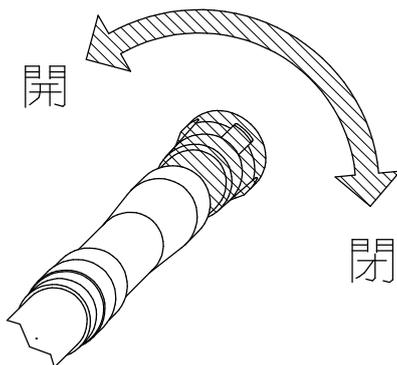
- ノズルの先端（外筒）を時計方向（“開”表示方向）に回すと放水します。又放水時、ノズルの先端（外筒）を回すことにより、直射—噴霧状態を無段階に調整できます。（ノズルの先端（外筒）を、反時計方向に回すと直射、さらに回すとストップ、時計方向に回すと噴霧になります。）

 **危険**

- ノズルは非常に操作しやすいサイズですが、放水時には前傾姿勢を取り、必ず両手で保持して下さい。
- 人に向けて、放水しないで下さい。人に当たると重傷、死亡にいたる場合もあります。

 **警告**

この消火栓は、初期消火に使用していただくものです。消火する事が困難と思われる時は、すみやかに避難して下さい。



## [ 復旧方法 ]

## 1) 放水を停止する。

ノズルの先端（外筒）を反時計方向（“閉”表示方向）に回し、放水を停止して下さい。

## 2) 消火栓バルブを閉じる。

消火栓バルブの開閉方向は、時計方向へ回すと閉じます。

この時ポンプは作動を続けています。全ての放水が終了した時点で、**ポンプ室**の停止ボタンを押して下さい。

## 3) ホース内の圧力を抜く。

ノズルの先端（外筒）を時計方向（“開”表示方向）に回し、ホース内の圧力を抜いて下さい。

## 4) ホース内部の残留水を抜き取る。

消火栓バルブからホースを取り外し、ホース内部の残留水を抜き取り、よく乾燥させて下さい。

（ホースを長くご使用して頂くために必要なことです。）

## 5) 消火栓バルブにホースを取り付ける。

 <b>注意</b> 消火栓バルブにホースを取り付ける時、手で締め付けただけでは漏水しますので、工具で確実に締め付けて下さい。
---

## 6) ホースを収納部の中に順次送り込み、収納する。

## 7) ノズルを閉止状態とし、ホース収納部の中に納める。

## 8) 消火栓箱の扉を閉める。

 <b>注意</b> 所定の機能・性能を維持するために法定点検及び、自主的に保守点検を実施して下さい。
---

## [ 設置時の注意事項 ]

埋込型本体は壁面より露出させないでください。

以 上

# 保守点検チェックリスト

\*該当項目について確認をお願いします。

年 月 日

	項 目	確 認	備 考
外          観	・格納品が揃っているか確認		
	・各部、清掃		
	・変形、打傷、へこみ等の有無を確認		
	・塗装の剥離、サビ等の有無を確認		
	・各部パッキンの劣化の確認		
機          能	・消火栓バルブの開閉操作が容易か確認		
	・各部の取付ボルト・ナットは、緩んでいないか確認		
	・漏水の有無を確認		

担当者 \_\_\_\_\_.